

# 地域医療連携室たより

No.25

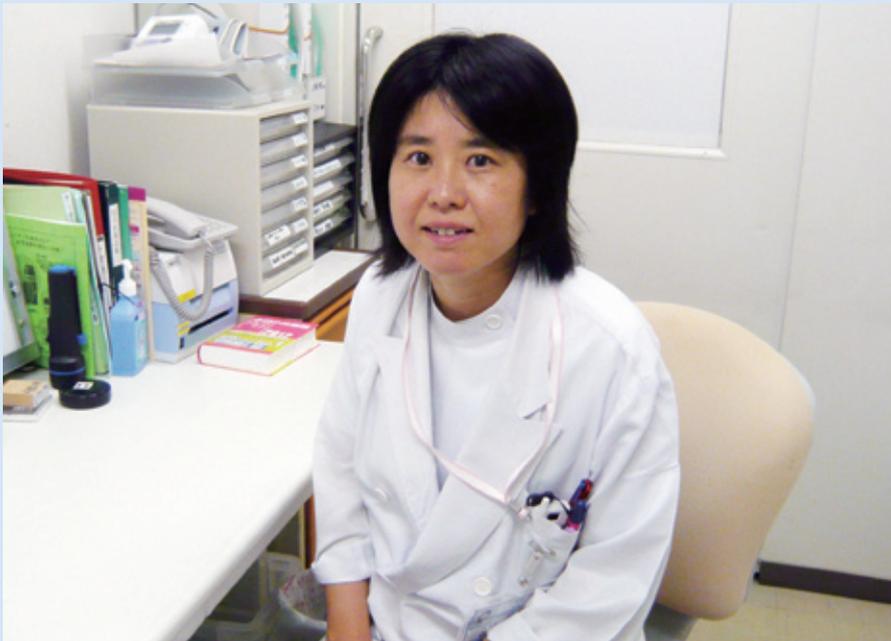
発行日  
2012年8月10日

医療法人社団松柏会  
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより  
第25号

## 脳卒中リハビリの充実を 患者さんの潜在能力を最大限引き出したい



脳神経内科医  
リハビリテーション科副部長  
やぐち ひさ  
**谷口 央 医師**

- 日本神経学会専門医
- 日本リハビリテーション医学会専門医 指導医
- 日本内科学会認定医

### 医師をめざしたきっかけは？

生まれは、山形県天童市。母から「手に職をつけることが大事だよ。」といつも言われていました。医療関係に目がむくようになったのは、10歳上の姉が、虫垂炎手術後腹膜炎で2度開腹手術しており、その後喘息発作を繰り返し、本人だけでなく、親も苦しんでいる姿をみていました。その姉が薬剤師の資格をとりました。このことがきっかけになったように思います。

### 神経内科、リハ科を選んだのは？

リハ科研修のローテーションは、いろいろな科を研修すると聞き、たくさんのことを学べそうと思い決めました。平成2年に山形大学を卒業し、すぐに整形外科の医局に入局しました。そして、整形外科研修と東京都老人医療センター（現在の東京都健康長寿医療センター）での麻酔科研修を行いました。東京都老人医療センターは600床近くある病院で、設備、研究、診療すべてにおいて充実していました。次の年の平成3年に、その病院で循環器科と神経内科を学ぶために、再び上京しました。2年間の研修期間が過ぎようとした時、指導を受けた先生から、この病院にとどまり、神経内科スタッフとして働かないかと言われ、神経内科医として6年間、お世話になりました。その後、平成9年、新潟県長岡市の病院に行き、その時に、回復期リハビリテーション病棟の立ち上げにかかわり、あらためて、その大切さを認識しました。

## 当院ではどのような医療を？



回復期リハ病棟カンファレンス

とにかく脳卒中リハビリを充実していきたいと考えます。できるだけ、患者さん自身の潜在能力を最大限に引き出すということが仕事です。その人のゴールを適切に把握し、目標をたてて、一定の期間内に成果をあげていくということが脳卒中リハビリの大切なことですね。漫然としたただの機能訓練ではなく、総合的に患者さんの状態を判断して良い状況にもっていく。これまで経験したことを何とかこの病院で生かせたらと思います。障害が重くても、あきらめないことです。とにかく「離床」です。極端に言いますと、リハビリテーションに

「安静治療」ということはないのです。「訓練」の時だけでなく、日常生活の能力を高めていくという方向でがんばっていきたいと思います。そうして「結果」をだしていければと思います。

## 患者さんとのつながりで心に残ることは？

前病院を去るとき私が入院リハの主治医となっていた70代の一人の患者さんから手紙をもらいました。その中には感謝の気持ちが綴られ、「終生忘れ得ません。(これから)がんばります。」と書いてありました。不自由ながら作業訓練で作成したコースターをいただきました。大切にするつもりです。こういった言葉をいただいた時が医者になって良かったとしみじみ思います。

## スタッフとのコミュニケーションをとるのに大事にしていることは？

遠慮なくいろいろ意見を言え、そして、良く意見を聞くことだと思います。特にリハは多職種の間でチーム医療が重要ですので、いろんな意見に耳を傾け、良いリハ診療を提供していきたいと思っています。

## ご家族は？趣味は？

娘が二人います。中学2年と幼稚園（5歳）です。8歳違います。家事は、夫と娘（中学）と私で3人で分担してやっています。

趣味は少々ピアノを弾きます。中学生の娘が弾くバイオリンに合わせて、ピアノの伴奏をしたりしています。少し前に、知り合いの結婚式でお祝いに娘と二人で演奏させてもらいました。また、最近はテニスもします。もともと大学時代は軟式テニスを6年間やりましたが、中学生の子どもが硬式テニスをはじめたので、復活しています。

谷口先生、お忙しいなかインタビューありがとうございました。脳卒中リハビリに対する熱い思いを淡々と語ってくださいました。ご家族に大きく支えられているんだなと感じました。今後ともいろいろご指導よろしく願いいたします。

# 第9回日本褥瘡学会 東北地方会学術集会参加



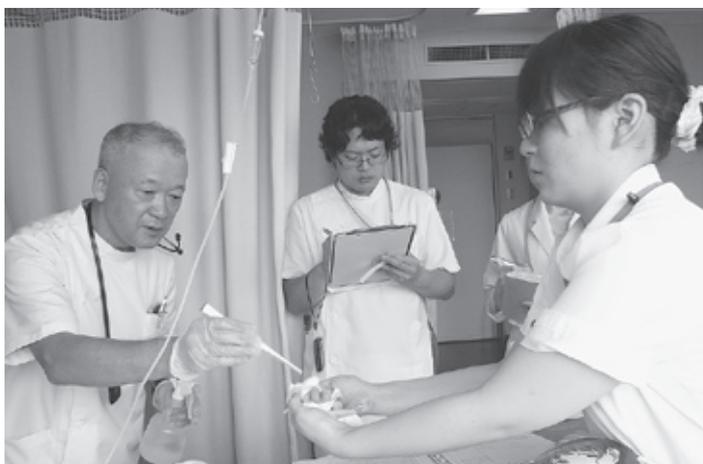
3階病棟 看護師 桑原 一道

当院では褥瘡の管理と治療について、外科の杉原保医師を委員長として、看護師、リハビリ、栄養科スタッフといった多職種による褥瘡委員会があり、毎週木曜日に回診を、月に1回のカンファレンスを行っています。また、院外での研修や発表にも力を注いでいます。去る6月23日に岩手県盛岡市での標記集会へスタッフ2名が演題発表を行いました。大島早喜委員は演題「当院における褥瘡院内発症症例のまとめ」、私からは以下の演題を発表しました。当院での日頃の成果を伝えることができ、より多くの事を学び、今後に向けての刺激を受けました。以下発表抄録を記します。

## 新たに発症した褥瘡に糖尿病壊疽を合併し、 チームアプローチにより救命した一症例

桑原 一道、杉原 保、大島 早喜、高橋 静子、院内褥瘡対策委員会

症例は79歳男性。既往は糖尿病・パーキンソン病・脳梗塞・類天疱瘡。一度仙骨部褥瘡で入院するも、軽快し退院していた。同部の褥瘡が増悪し、感染を伴い高熱を呈したため再入院となった。入院後に右足外側と左足内側に褥瘡が新たに発症。左足は通常の処置にて改善するも、右足に糖尿病性壊疽を合併し、下腿中央部まで及んだ。整形外科にコンサルトし、同科で右大腿部での切断術を行った。術後はおおむね順調であった。栄養管理は周術期に中心静脈栄養とし、その後CV抜去し経管栄養を経てPEGを施行。胃瘻よりの経管栄養で安定した栄養管理が可能となった。血糖については糖尿病専門医が対応し、経管栄養剤および内服薬を調整することでコントロールを図れた。また仙骨部褥瘡は、左足と同様の処置を看護師が中心となり行って、改善がみられた。以上の経過により各部署の協力によって患者の救命および退院にまで至ることができたと思われる。現在は軽快、特老にて療養されている。



褥瘡回診

杉原医師(写真左)を中心に、多職種でチームを編成し、週1回行なわれています。

# ディズニーリゾートでリフレッシュ!

職員研修旅行に行ってきました。



当法人では、6月に3班に分かれて千葉のディズニーリゾートに行ってきました。日常の諸事を忘れ、思い切り楽しみました。

朝、6時40分山形駅集合。新幹線でどまんなか弁当を食べ、東京駅10時着。そして舞浜へ。ディズニーシーにあるホテルミラコスタで中華料理の昼食。それからは自由行動。

目当ての乗り物を目指し、ファストパスをゲットする人、のんびりぶらりと散歩する人、



それぞれの旅行を楽しみました。普段ゆっくり話ができない方とも、この時とばかり話し込みました。

次の日、夕方7時山形駅着。疲れたー。

## 我が街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ⑮



### 焼肉 ちとせ 千歳

営業時間 17:00~24:00  
休業日 毎週水曜日

山形市木の実町8-8 Tel.023-632-0044

#### ◆千歳晋哉さんに聞く

2010年にオープン、2年目となる焼肉店です。店主は開業前、畜産業者に勤務。肉のプロフェッショナルであることはもちろんの事、牡牛座、丑年、牛好きという肉を愛する気さくで元気な店主さんです。「美味しいお肉を安く食べて知ってもらいたい」という想いで経営されており老若男女から人気のあるお店です。これから夏本番！焼肉が美味しい季節です。特に女性にはコラーゲン冷麺がおすすめ。予算に応じてコースも

組めるとの事ですのでぜひご利用下さい。



日本医療機能評価機構認定施設  
病院機能評価 Ver.6

至誠堂総合病院  
地域医療連携室  
山形市桜町7-44  
023-622-7551 (直通)  
http://www.shiseido-hp.jp  
E-mail mail@shiseido-hp.jp  
発行責任者 至誠堂総合病院  
小林 真司  
編集 地域医療連携室